

民主化闘争情報

No. 847
2011年12月27日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR東日本は浦和電車区事件を契機に、徐々に職場秩序の確立に乗り出してきている。一方の東労組は、「ローカルルールは是正」と称する職場組合活動に対する会社の対応に反発を強めている。

「ローカルルールは是正」で反発強める東労組！ 掛け声とは裏腹に「労使共同宣言体制再構築」を哀願！

さらにここに来て、運輸車両職場の現場長会議で配布されたとする「ローカルルールは是正について」なる文書の存在が発覚したことにより、さらにこの問題はヒートアップしてきた。東労組が「東労組破壊のマニュアルだ」とする文書の内容とは以下のようなものである。

1 運輸車両部門として、安全快適、安定した輸送を阻害するようなこと

当社の経営の最重要課題である安全にかかわる事柄については、運輸車両部として最優先で是正に取り組むこととする。主たる課題である、CS活動が本来の目的から外れているという事柄や訓練に管理者が参加できない(していない)という事柄に対しては、「安全指導のキーマン」のかかわりを強化していくことを端緒に是正を進めていく。

2 円滑な業務運営の阻害要因となるような勤務関係のルール

勤務の取扱いについては、同じような事柄であっても区所により状況が異なることから、個々に細やかな対応が必要となるが、是正の前提として管理者の勤務に関する知識を向上させる必要があることから、長期的な視点での取り組みになる。なお、組合への「つなぎ」やダイヤ改正時の行路作成等については、先行して是正していく。

3 社員の意欲・発意を阻害するようなこと

4 管理者と社員のかかわりを阻害するようなこと

現場長との飲み会を明確に禁止する等、事象が顕在化している事柄については、会社として正面から取り上げることを通じ、先行して是正していく。一方で、試験の受験に対する圧力や改善活動への参加を抑え込む等、事象が顕在化していない事柄も多く、それらの是正が大きな課題となる。対策として、自区他区含め My Project の取り組みを積極的に公開していく等の仕掛けにより事象を顕在化させたり、意欲あるプロ採社員の意欲・発意をさらに促す様々な仕掛けを講じていくことにより是正を図っていくこととする。

この文書に対して、東労組は『緑の風』第537号で、「問題なのは、会社のインフォーマル組織から特定労組の排除を明確にして、『仕掛け』によって組合内部の矛盾を醸し出そうとしていることである。会社の時間と金で労働組合の動揺と弱体化を意図したものは、団結権の侵害であり不当労働行為そのものだ。どう見ても会社の『力』で反組合分子をつくらうとしていることは、『マル生』の手法そのもの」だとして、会社の対応を批判している。

危機感丸出しで「労使共同宣言体制再構築」を哀願する東労組！

ところが、今年6月に開催した定期大会で、会社の対応に対して、スト権確立の議論を展開するなど、口先では勇ましい主張を繰り返してきた東労組だが、労使関係における危機意識の現れからなのか、ここに来て急速にトーンダウンしてきている。

たとえば、『旬刊ACCESS』第313号のインタビュー記事で、石井隆副委員長は「『労使共同宣言体制を再構築』すべきだと思っている。『労使共同宣言』は信頼関係で成り立っている。信頼関係が崩れると団体行動権の行使もあり得る。現時点そういう議論は必要ないと考えており、『労使共同宣言』に立ち返る議論が必要だ」「『浦電事件』が起こってから、労使関係もギクシャクしてきた」「今日の状況を作り出してしまった責任は我々にもある」と“自己批判”したうえで、会社に「労使共同宣言体制の再構築」を哀願している。

ついに、東労組も「万事休す」ということか!?